

〈北〉を

飯豊山麓の折りの郷、

奥会津のからむしの村を

達人といっしょに訪ね、

喜多方の酒蔵と昭和の交流の場では、

北を考え続ける方たちと

東北の未来を語ります。

緑あふれる会津の奥深い歴史と

民俗に触れる小さな旅、

ぜひご参加ください。

山都町

〈北〉を学ぶエクスカージョン・シンポジウム・トークセッション

学び、

「カラムシと民俗」

昭和村

8月27日(木)

13:00~16:30 エクスカージョン「山と暮らし」

17:00~19:00 シンポジウム「北を学ぶということ」

会場：大和川酒蔵北方風土館 良志久庵(喜多方市字寺町4761)

8月28日(金)

9:00~12:30 エクスカージョン「カラムシと民俗」

14:00~15:30 トークセッション「昭和村に暮らして」

会場：織姫交流館(大沼郡昭和村大字佐倉上ノ原)

主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

「山と暮らし」

知る。

「北」を学ぶエクスカージョン・シンポジウム・トークセッション

東日本大震災から4年を経過し、さらに復興に向かう福島において、自らのアイデンティティ、生まれて暮らしている地域の歴史と文化を知ること。それは、その地に生きる誇りと未来への希望をつかむことでもあります。(北)を知り・学ぶプロジェクトでは、福島県会津地方をフィールドに北に関わる思考、北の暮らしの民俗、北の自然環境を語り合う場を作ります。会津地方を歩き、そこから得たものを語り合う、エクスカージョンとシンポジウム、トークセッションからなる2日間は、東北地方に代表される北の豊かさ、苦しさ、克服すべき課題、未来への展望を見出す時間となるでしょう。導き手は、東北を考え表現する活動を続けるアーティストと研究者です。東北各地での思考と実践が結び合い、より強い連携が生まれる機会にぜひ一緒にください。

8月27日(木)「山と暮らし」

13:00~16:45 エクスカージョン「山と暮らし」

13:00 喜多方プラザ発

13:30 喜多方駅発

ルート:①喜多方市 雄国地区(飯豊山眺望)⇒

②喜多方市 山都地区(オンバサマ/飯豊山神社)

16:15 喜多方プラザ着

16:30 喜多方駅着

16:45 大和川酒蔵着

*事務局手配のバスで移動します。

講師:丸山芳子(美術家)

小澤弘道(前喜多方市文化課長・会津坂下町史編纂室専門員)

定員制(15名・先着順)

要申込(電話かfaxでお申し込みください)

参加費無料

8月28日(金)「カラムシと民俗」

8:45~12:45 エクスカージョン「カラムシと民俗」

8:45 喜多方駅発

9:45 福島県立博物館通用口発

ルート:①昭和村 からむし工芸博物館・織姫交流館⇒

②昭和村内(からむし畑等)⇒③昭和村 渡し舟

12:45 昭和村 道の駅からむし織の里着

15:45 昭和村 道の駅からむし織の里発

16:45 福島県立博物館着

17:30 喜多方駅着

*事務局手配のバスで移動します。

*昼食は各自お取り下さい。

講師:千葉奈穂子(写真家)/渡し舟(渡辺悦子・舟木由貴子)

実演(ぞうりづくり):本名文夫

定員制(15名・先着順)

要申込(電話かfaxでお申し込みください)

からむし工芸博物館入館料300円が必要です。

■講師プロフィール

丸山芳子/美術家。福島県二本松市出身、東京都在住。各国の国際展に参加し、多様な民族背景を持つアーティストや現地の人との交流を通して、差異を越えた人間とは何か?を作品テーマとする。展覧会企画や地域で展開するアート活動も多数。2012年、郷里である福島・東北の3.11からの再生を期して「精神の<北>へ」を開始し、多様なフィールドにおける北なるものを探り、世界の北方と共振する東北の再認識を試みている。

千葉奈穂子/写真家。岩手県出身、山形県酒田市在住。19世紀の写真技法「サイアノタイプ」を用いて手漉紙にプリントする手法で作品を制作。東北に暮らす人々の思いや風土をつづる作品等・写真、映像、立体を用いて制作。2012年から南相馬市での撮影も継続中。「センダイアートビジュアル2002」飯沢耕太郎賞受賞。2012年「会津・漆の芸術祭」出品。2014年「精神の(北)へ」参加。

石倉敏明/人類学者。秋田公立美術大学講師(アーツ&ルーツ専攻)。多摩美術大学芸術人類学研究所助手を経て、明治大学野生の科学研究所研究員、現職。地域の歴史的な文化資源(ルーツ)の調査・研究を通して、その再評価の中から新たな芸術表現を探索している。共著・編著に「人と動物の人類学」、「道具の足跡」、「折形デザイン研究所の新・包結図説」、「生活工芸」の時代」等。

久松知子/東北芸術工科大学修士課程日本画領域在籍。三重県出身、山形県山形市在住。2011年より東北芸術工科大学チュートリアル「東北画は可能か?」に参加し、滞在制作や展覧会の共同制作を行う。2013年「喜多方・夢・アートプロジェクト2013」、2014年「新・北方美術倶楽部」に参加。2015年「第18回岡本太郎現代芸術賞」岡本敏子賞、「第7回網谷幸二賞」奨励賞受賞。

17:00~19:30 シンポジウム「北を学ぶということ」

会場:大和川酒蔵北方風土館 良志久庵

講師:石倉敏明(人類学者・秋田公立美術大学講師)

金親文史(IORI倶楽部事務局長)

石原葉・久松知子(東北芸術工科大学大学院在籍・東北画は可能か?メンバー)

モデレーター:丸山芳子

申込不要

参加費無料

14:00~15:30 トークセッション「昭和村に暮らして」

会場:織姫交流館

ゲスト:皆川キヌイ(やすらぎの宿とまり木経営)

聞き手:千葉奈穂子

申込不要

参加費無料

■お問合せ・お申し込み

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会事務局

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25(福島県立博物館内)

TEL:0242-28-6067(事務局直通)

もしくはTEL:0242-28-6000(福島県立博物館代表)

FAX:0242-28-5986(福島県立博物館内)

*毎週月曜日、祝日の翌日は休業

石原葉/東北芸術工科大学修士課程日本画領域在籍。東京都出身、山形県山形市在住。2011年より東北芸術工科大学チュートリアル「東北画は可能か?」に参加し共同制作を行う。2014年第6回トリエンナーレ豊橋 星野真吾賞展、碧い岩見の芸術祭 全国美術大学奨学日本画展2014出品。

東北画は可能か?/東北芸術工科大学美術科准教授の三瀬夏之介と鴻崎正武が指導するチュートリアル活動。東北には、奈良や京都や東京とは全く違う感性、文脈、物語性があると感じ、「東北地方に必要とされる美術」「東北にいるからこそ作ることができるものは何か?」をともに考え、学生、大学院生中心に共同制作、リサーチ、展覧会等の活動を活発に展開している。

小澤弘道/会津坂下町町史編纂室専門員。旧山都町(現喜多方市)出身、在住。東洋大学史学科卒業後、山都町役場勤務。教育委員会在職中に「山都町史」編纂に尽力。喜多方市との合併後は、喜多方市文化課長として「喜多方・夢・アートプロジェクト」の立ち上げに尽力した。現在も会津の民俗学調査を続ける。

金親文史/IORI倶楽部事務局長。秋田県秋田市出身、喜多方市在住。筑波大学芸術専門学群建築デザインコース卒業。1998年、奥会津の三島町早戸で明治時代の茅葺き民家暮らしを始め、古民家再生や地域の素材や技を活かした家づくりを展開する。現在は喜多方に拠点を移し、建築関係のプロジェクトマネージメントを中心に、地域づくりや自然エネルギーの普及活動等、多岐に渡る活動を行っている。

渡し舟/織姫(からむし織体験)として昭和村に移住した渡辺悦子と舟木由貴子が主宰。織姫修了後も、からむしを通して昭和村の魅力を村内外に伝えようと活動している。2015年6月に完全予約制のからむしの店をオープンした。

皆川キヌイ/「やすらぎの宿とまり木」経営。昭和村在住。「やすらぎの宿とまり木」は昭和村で初の農家民宿、郷土料理をはじめ昭和村の暮らしと魅力を伝えている。

「カラムシ」と「民俗」